

○第一段階の剰余金

【剰余金の解消方法・計画】

- ・翌年度、剰余金が発生した公益目的事業を拡大
- ・剰余金が発生した公益目的事業のための特定費用準備資金の積立

<記載例>

理由： 例1) 公2の〇〇セミナー開催事業は、年3回を予定していたが、2回しか開催
計画： できなかった。次年度は、開催回数を1回増やすとともに、参加者増加のため
のPR活動を行い、約25万円の支出増を見込んでいる。

次年度の
剰余金解
消計画

例2) 公2の競技会開催事業は、参加者減が見込まれていたため経費を削減し、
支出が伸びなかった。平成〇年度に〇〇競技会を大規模に開催するため、特定
費用準備資金の積立を行う（次年度は50万円積み立てる。）。

※次年度に剰余金を解消する旨の計画を記載した場合、次年度の事業報告を提出する際、剰余金の
解消実績(解消状況)を記載した書類(任意様式)を添付してください。

○第二段階の剰余金

【剰余金の解消方法・計画】

- ・翌年度の公益目的事業の拡大
 - ・公益目的事業のための特定費用準備資金の積立
 - ・公益目的事業のための資産取得資金の積立
 - ・公益目的保有財産の取得
- (・翌年度までに剰余金を解消できない特別な事情がある場合は、翌々年度までの解消計画)

<記載例>

収支相償の額(収入-費用欄)がプラスとなる場合の今後の剰余金の扱い等

次年度に剰余金を解消する場合

例1) 次年度、公2の〇〇奨学金給付事業の支給対象者を拡大する（4名増。1人当たり
3万円を給付し、12万円の支出増加を見込んでいる。）。

例2) 当法人の〇周年記念事業の一環として公3の〇〇事業を大規模に実施するため、次
年度から特定費用準備資金の積立を行う（次年度は50万円積み立てる。）。

当年度中に剰余金を解消した場合

例3) 当期、平成〇年度に公益目的事業に使用する車輛（公益目的保有財産）を取得する
ため、資産取得資金として50万円積み立てた。

例4) 当期、公1事業の〇〇展示会に使用する公益目的保有財産を取得した（品名：展示
ケース、取得額：45万円（15万円×3台）、取得年月日：平成〇年〇月〇日。）。

※次年度に剰余金を解消する旨の計画を記載した場合(例1及び例2)、次年度の事業報告を提出す
る際、剰余金の解消実績(解消状況)を記載した書類(任意様式)を添付してください(例3及び例4の
ように、当年度中に剰余金を解消した場合は、提出不要です。)